

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム 結ぶ)

事業所番号	0690800404		
法人名	庄内みどり農業協同組合		
事業所名	グループホーム 結ぶ		
所在地	山形県酒田市熊手島字道の下熊興屋17番1		
自己評価作成日	令和 3年 10月 12日	開設年月日	令和 3年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の4月に開所したばかりですが、事業所理念の『結ぶ』を念頭に、入居者のその人らしい生活が送れるよう、日々職員同士で試行錯誤しながら業務に当たっています。家庭に近い環境のなか、自分らしさを活かせる生活を続けていけるよう努力していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 11月 2日	評価結果決定日	令和 3年 11月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が広がるのどかな地域に既存の法人福祉センターやデイサービス事業所と併設して今年4月に開設し、地域からは賑わいの一端を担う事業所として期待され歓迎されています。理念に事業所名の「結ぶ」掲げ、利用者の記憶と経験・家族や地域・職員との絆を結び、家族と共に過ごす時間や地域との交流を通して繋がりを深めるように取り組んでいます。生活は一日のスケジュールを決めず全員参加のレクリエーションなども行わず、利用者の心のままにしたいことをしたいときにいき、職員はその時々意向に沿って一人ひとりに合わせた支援で寄り添っています。コロナ禍にあっても感染対策をしながら可能な限り地域や家族との交流を断つことなく、開かれた事業所を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の理解を行うため、開所前に職員研修を行っている。スタッフルーム内に、職員がいつでもふり返られるように、迷った際の道しるべとして掲示している。毎月のグループホーム会議では理念の確認を行っている。	開設時に関わった職員同士で、グループホームとしてあるべき姿を明確にして事業所名称に合わせ表現している。経験も少ない中、迷ったり悩んだりした時は理念に立ち返り話し合っ、全職員が同じ方向を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、回覧板を回してもらっている。参加可能な行事に参加させていただいたり、建物周囲の散歩を行っている。	地域からは喜んで受け入れられ、桜を観る会や蕎麦振る舞い、文化祭への作品出品や見学などに誘いを受け、利用者と共に参加して距離を縮めている。また神社の雪囲いには進んで手伝いを申し出、高齢化する自治会の助けと期待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	参加可能な行事に参加させていただいたりしているが、地域の方の認知症の理解等を広げる活動にはまだ繋がっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を実施し、入居者状況や、活動の内容の報告を行っている。家族代表の選出がまだ行われておらず、家族の要望等については面会時に随時確認している状況である。地域の意見についても、グループホームといった事業所の理解や、馴染みの関係になる事が必要である。	コロナ禍で書面報告の回もあったが、可能な限り対面で行い理解に繋げるよう努めている。コミュニティ振興会長・民生委員などの方から参加を得て活動内容や利用状況などを報告し、メンバーからは地域行事などの情報をもらい取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、その都度アドバイスを頂いたりしている。市町村から随時メール配信あり、不明な点や確認したい事があればいつでも相談できる体制にある。	市担当者からは運営推進会議参加時に生活の様子を見て、状況を把握してもらっている。新型コロナ対策では情報を共有して対応を検討するなど、困り事があればいつでも相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所開所前に身体拘束について職員研修を行い、正しく理解できるよう努めている。現在、強い帰宅要求等聞かれる入居者もおらず、日中の玄関の施錠は行っていない。外出希望が聞かれた際は、散歩に出かけたりと、出来るだけ入居者の希望に添うよう対応している。現在は落ち着いている傾向にあるが、夜間にご自分で開錠し外に出られる入居者がおり、その際は理由の説明を行い、戻るように伝えている。その旨、対応方法も家族へ報告し理解を得ている。	開設前に身体拘束について研修をして、内容と弊害の理解に努め対応の統一を確認している。利用者に抑圧感を与えないように一日のスケジュールを決めず、寝たい時に寝、食べたい時に食べてもらい、落ち着きがなくなったら職員が付き添い散歩に出かけるなど、自由な暮らしを支えている。	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」(仮称)を立ち上げ、その取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所開所前に虐待について職員研修を行っている。また、日頃より、職員同士、虐待行為はもとより、言葉使い等振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度等活用している入居者はいないが、今後において、まず管理者が勉強し、制度の理解を深め、職員へ伝達、今後、必要な制度があれば活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットの配布や、施設の見学を行っていただいたり、事前面接時に事業所の説明や質問があればその都度お答えさせていただいている。契約時には契約書に沿って内容の説明をし、質問があればお答えしてから、納得された状態での契約の締結をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が自分の気持ちを伝えやすい雰囲気作りと、関係づくりをするように努めている。家族については、面会時や電話等で、意見や要望があればお答えするようにしている。	利用者の家族への思いを大事にして可能な限り面会を制限せず、一時帰宅や家族と外出の時間も大切にしている。利用者の行動背景を家族に聞いたり、生活の写真を請求書と共に送るなど、状況を共有して利用者と家族の安心に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの相談については、よく話を聞くようにしている。日常の申し送りに加え、パソコン上で業務・入居者に関する申し送りを併せて行っている。また、話し合いたい事等あれば毎月のグループホーム会議にて意見交換、話し合いをするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員面談が設けられている。今年1回目は9月にアンケート方式にて実施されている。年間休暇の他、有給休暇、その他の特別休暇の取得。毎月の勤務表に関しても、希望休の確認を行い勤務表を作成している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政、他事業所からの情報により、研修が開催されている時には回覧にて情報提供している。毎月のグループホーム会議では、介護技術等職員間で教え合い、学べるようにしている。	開設に当たり法人内他事業所からの移動や経験者の職員採用で混乱なく運営ができていたが、研修の機会が少ないと思われる。必要に応じグループホーム会議でケア技術などを学び合い気づきやアイデアを検討し、意識を統一してケアの向上に努めている。	研修の充実を図り、職員一人ひとりが技術や意識の更なる向上に繋げることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ連絡協議会に参加し、他事業所と交流を凶っている。同JA内でのオンライン研修に参加し、その内容をグループホーム会議で報告している。また、以前より交流のある施設と情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	ケアマネジャー連絡協議会で他事業所との会話から地域の介護に関する動向の情報を得ている。また開設前に見学を訪れた事業所とは現在も連絡を取り合い、時には来訪を受け会議に参加してもらうなど、良き理解者となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査行いアセスメントを行っている。本人の話、要望はもちろん、家族やケアマネから情報をうかがい、職員が情報共有できるように個人ファイルに掲示し安心した生活が行えるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に家族からの本人に対する思いや、要望についてうかがい、信頼関係を気づけるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査時に、初めからサービス利用を前提として話を進めるのではなく、家族の不安や悩みに耳を傾け、「今」グループホームに入居する事が本当に望ましいか、他のサービス利用の可能性も併せ見極めるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、できる事、できない事を見極め、普段の生活を過ごしていただいている。また、今までの暮らしや、経験を活かせる事に対して、声掛けをし、お手伝いいただいている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助や、必要物品の購入など、家族に協力いただける事をお願いしている。また、入居中の本人についての相談や、日ごろの様子など、協力してほしい事などあれば伝え、関係性の構築を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過であるが、市の要請等に配慮しながら出来る限り面会を継続している。面会の他にも、電話や手紙で個人の繋がりを継続して頂いたり、隣施設の馴染みの利用者や職員と交流が出来るように、お互いに行き来できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間での情報から、入居者同士の関係性把握している。食席の配慮や、職員が懸け橋になる事で、入居者同士の関わりが増え、トラブルなく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了した方がまだいないが、本人・家族に親身となって、相談や情報提供等のフォローが出来るように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査時に本人の希望、以降について確認している。また普段の生活から、本人から希望聞かれた際は可能な限り添えるように努めている。困難な場合は、本人の仕草や行動等から感じ取れるように注意している。また、家族へ相談したりと、本人の気持ちを出来る限り汲み取れるように努めている。	入居前に本人や家族から暮らしぶりや意向を聞き、日々の生活の中で見えてきたその方の性格を知り新たな思いを引き出し、意向に沿った支援をしている。畑仕事や伝統食の調理など好きな事や得意な事を活かして一人ひとりの持ち味を尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に生活歴や、入居前の暮らし方等、自宅訪問の際は可能であれば自室の環境の確認をさせていただき、家族やケアマネ、利用事業所から情報収集し、職員間で共有できるように個人ファイルに掲示している。また、会話から本人の情報を聞き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化に注意し、職員間での申し送りや普段の様子記録の充実により、把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態について気になる事がある際は、その都度職員間で相談し合うようにしている。モニタリング時期になった際は、グループホーム会議にて職員の意見を聞き介護計画の見直しを行っている。介護計画を更新した際は、本人、家族へ提示、確認してもらっている。	利用者の思いを最優先に家族の意向も大事にして、生活記録の充実を図り全職員が共有している。毎食後の食器洗いや畑仕事などを日課としてこれまでにできていた事は継続しその方の役割として活かせるよう計画作成を行い、穏やかにその人らしい生活を送れるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に、様子やケアの内容、状態の変化などを記入し、職員間で共有できるようにしている。一斉の記録とならないよう、タブレットを使用し、気づいた時にすぐ記録に残せるようにしている。記録を充実する一方で、入居者との関わりの時間が減らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会に加入し、回覧板を回してもらったり、参加可能な行事に参加させていただいている。グループホーム内だけでなく、地域と触れ合う事で楽しみを見いだせ、地域からも事業所を知っていただけるように努めている。</p> <p>安心おかえり登録・内服薬の配達</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診や状態変化により受診が必要になった際は家族の協力により受診していただいている。かかりつけ医へは事前に入居中の様子や状態が分かるように必要に応じて連絡を入れたり、文章を用意し、受診時に家族から持参して頂いたりと情報提供に努めている。</p>	<p>家族同行でそれぞれのかかりつけ医へ通院し、身体状況の変化等は書面を用意持参してもらい、受診結果は聞きとり共有している。ケアマネジャーが看護師であるため日常の健康管理や急変時の対応、医師との連絡などスムーズに出来る体制にある。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在コロナ過である事もあり、毎日の検温を実施している。血圧の測定は入浴前に実施し、安全に入浴できるように努めている。日々の様子は記録に残しており、いつでも看護職員と情報共有できるようにしている。また、入居者について相談等あれば職員間で随時話し、体調管理に努めている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>まだ入院された入居者がいないが、入院治療が必要となった場合は、病院関係者との情報交換や相談に努めていきたい。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に重度化や終末期について施設の考えを説明している。本人の状況の変化と施設生活での対応の変化を随時報告し、本人にとってより良い環境、状態で終末期を送れるように支援・協力していきたい。</p>	<p>入居時、風呂に入れなくなるなど重度化した時はその時点で家族等と話し合う場を設け、看取りは行わないことも含め介護方針を説明し理解を得ている。生活状況や身体状況の変化について家族等と連絡を取り合い穏やかに過ごせるよう支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>開所前に急変時や事故発生時の対応について研修を行っている。急変時の対応マニュアルを作成し、救急カードに掲示している。開所後1度救急対応しているが、対応後のグループホーム会議にて対応について振り返りを行い、次に活かせるようにしている。今後もさらにマニュアル・体制の見直しと、定期的な研修や訓練が必要。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設の防災計画に基づいて、防災訓練を予定している。1回目の火災避難訓練は7月に実施している。火災通報訓練・避難訓練・水消火器訓練の実施。次回は12月に予定で、夜間想定での避難訓練を予定している。 火災時の避難だけでなく、災害時の避難や、地域住民の協力についての課題がある。	7月に日中想定での避難訓練を行い、火事ぶれ、初期消火、通報、避難誘導等災害時行動を確認し、利用者も一緒に水消火器の使用訓練に参加している。開設して初めての避難訓練実施であったが職員・利用者がスムーズに行動出来ている。	夜間火災や地震などの自然災害想定訓練、地域との協力関係構築など課題となる事項を検討して行くことに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し、人生の先輩としての敬意を払いながら声掛けをするように心がけている。聞かれない事、見られたくない事を他者に知られないようにプライバシーに留意した声掛け・対応を行っている。	一人ひとりの人格や尊厳を尊重しながら利用者の仕事や生活歴、思いなどを理解することで方言での会話や声かけが暮らしの中での笑顔に繋がっている。言葉遣いなど接遇について話し合い共有し、羞恥心や他に知られたいくないことなどプライバシーにも配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いはせずに、その都度、意思や希望を確認するようにしている。伝わりやすいように、声の大きさや説明の仕方に注意して対応している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念にも掲げている。グループホーム会議での理念の確認や、職員間で業務都合が優先になっていないか、その都度問いかけあっている。おおよその流れはあるが、これといって決まりもなく、入居者が望むように臨機応変に一日が過ごせるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着選びなど、ご自分で選べる方は選んでいただいている。自室に鏡を持って来ている入居者も居るが、持参が無い方は洗面台へ行き身だしなみを調べたりしている。理美容に関しても、本人より希望が聞かれた際は、今までの馴染みの床屋へ家族と向かわれたり、訪問理容を希望時にお願ひしたりと、それぞれで対応している。化粧品やシャンプーなども、個人のこだわりの物をそれぞれ使用していただいている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は大まかに決まっているが、その日の材料や、入居者の食べたい物で急にメニューが変わる事もある。食事の準備に関しても、日ごろから手伝っていただける事をお願いしたり、食器の片付けに関しては習慣化し、自発的に手伝ってくれる入居者も居る。	準備した献立だけでなく農作業で育てた採れたて野菜を使っての料理やその日の食材、リクエストにより変更することもある。味付けや調理方法など利用者から教わることもあり、また配膳・後片付け・食器洗いなどはそれぞれの役割となっている。職員と一緒に食事や敬老会での出前弁当は楽しみとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形状、提供量など、個人に合わせて提供している。ご飯に関しては自分で盛れる方は炊飯器から自分で盛っていただいている。水分摂取に関しても、好みの物を確認しながら提供している。自由に水分摂取できるようにしているが、自分で汲みに行かれる方は少ない。 食事、水分の摂取量を記録している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の希望や習慣もあり、全入居者が毎食後ではないが、声掛けを行い洗面所にて口腔ケアを行っている。ご自分でできる方、見守り、一部介助が必要な方、それぞれに合った対応方法で行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現段階では排泄意がある方ばかりであるが、失禁が見られる方もいる。前回の排泄意より時間が多く経過している場合は職員から声を掛け誘導している。更衣に関しては、できない事を介助するようにしている。	排泄は自立している方が多いが、訴えがない時は入力されている生活記録やケア内容、状態変化などをタブレットでチェックし、時間を見て声掛けしてトイレ誘導している。またトイレでの更衣や失敗時の介助などではプライバシーを損ねないよう配慮している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無のチェックを行っている。下剤が処方されている方に関しては、医師の指示に従って服用していただいているが、普段から野菜を多く、定期的に乳製品を摂取してもらえようメニューを考えている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴としている。同性介助の希望聞かれる方に関しては希望に沿って対応している。個人で曜日は決めず、入浴の間隔にばらつきが出ないように決めている。当日の希望もある為、臨機応変に対応している。夜に入浴したい希望がある方もあり、その方に関しては夕食後に入浴していただいている。	利用者の希望に沿って同性介助や午前や午後、就寝前に入浴、また一人ひとり湯を入れ替えるなど気持ち良く入浴できるようにしている。週2回以上を目安としてマイシャンプーなどを使い清潔感を保ち、また身体状況観察や手すり設置で安全にも配慮している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、個々の生活リズムに合わせて生活していただいている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報は個人ファイルへ掲示しておりいつでも確認できるようにしている。内服薬が変更になった際はその都度情報を掲示確認している。内服薬の管理については個人で管理している方もいる為、続けて管理できるように声掛け等行っている。個々にあわせ一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が同じ事をするのではなく、その方の経験、得意を活かし、それぞれが活躍できる場を考へて行っている。嗜好品や外出に関しても、できる限りその時々希望に沿うように対応している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が聞かれた際や、外に出ようとしている姿が見られた際は職員と共に戸外に出かけている。家族との通院後等、自宅へ戻られたり、家族と買い物や食事をしたりされる事もある。	新型コロナ感染状況を見ながら近隣への散歩やなじみの床屋で散髪するなどできるだけ外気に触れる機会を作っている。病院帰りに家族と一緒に自宅でくつろぎ、買い物や食事をしてる方も見られる。全員で出かける外出行事の計画は無いが要望があれば個別に外出できるようにしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭管理している方もいる。その方に関しては、契約時に本人と家族へ説明を行っている。その他のご自分で管理できない方に関しても、契約時に家族へ相談し、上限を設けて「預り金」として、本人が自由に使えるお金を施設で管理させていただいている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと話が聞かれた際は対応している。また個人の携帯電話使用や文通等も自由に行っている。家族からの電話があった際も、本氏へ取り次ぎ行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で落ち着いて過ごせる環境として、建設時に電気の明るさや壁紙など考慮している。又危険なく、安全に過ごせるよう、見渡しが良く見守りができる間取りとし、危険が少ないようバリアフリーとなっている。畑に花が咲いた時やいただいた時は、入居者に生けてもらい飾っている。	清潔感がありどこからでも見渡せ、見守りしやすい広々とした空間はブラウン色を基調とした造りで落ち着いた雰囲気となっている。リビングは畑で育てた季節の花を飾り、キッチンからの調理のにおいを感じ、テーブル席やソファに集い会話を弾ませながら一人ひとりがゆっくり過ごせる場所となっている。畳敷きの部屋では横になりくつろぐ様子も見られる。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、縁側があり、思い思いに過ごせるようにしている。独りで過ごせるスペースとして、1人掛け用の椅子やソファの準備など検討していきたい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>クローゼット、チェスト、ベットは備え付けの物があるが、家具・家電の持ち込みも自由としている。寝具に関しても持込自由で、入居時に家族にも手伝っていただき居室の準備をして頂いている。</p>	<p>備え付けのベッドや整理たんす、持ち込んだ生活用品や写真・お気に入りの品など利用者が使いやすいように配置し居心地良い居室作りをしている。掃除も行き届き整理整頓されたなか、就寝時照明の明暗を自分でリモコン操作をする方もいる。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー仕様、手すりの設置にて安全に移動できるようにしている。個々の心身状況からできる事はできる限りして頂けるようにしている。</p>	/	/	